

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

大きな行事が終わり 新たな一歩を！

感動の体育大会からはや二週間が過ぎようとしています。完全燃焼した生徒たちは目標を見失ったのか、何となくフワフワとした落ち着きのなさが感じられます。もちろん早々に切り替えて、前を向きながら次の目標に向かっていく人も多く見られます。一方で燃え尽きた寂しさからなのか、首をかしげるような行動や生活態度を目にすることもありました。

4月のある日の佐賀新聞の「声」の欄に投稿当時小学校6年生だった方の投書が載っていましたので紹介します。

「スイッチ」を入れて 佐賀新聞の「声」より

私は国語の授業でメディアリテラシーを専門とする下村健一さんの「想像力のスイッチを入れよう」を読んだ。この文章にあった、結論を急がないなどの下村さんが考える「スイッチ」に納得した。

ある日、インターネットで見た本当かどうかかわからない記事を友達に広め、そのうわさがあつという間に広まっていたことがある。想像力のスイッチには、「他の見方もありうることに気づく」「伝えていないことについて想像力を働かせる」などのスイッチがたくさんある。特に興味を持ったのは「印象に過ぎない可能性がある」というスイッチである。このスイッチを入れていけば、うその情報が流れなかっただろう。もっと早く出会っていたら、そんな過ちがなかったかもしれないのと思った。

今後、インターネットで得た情報は、すぐに信じるのではなく、下村さんが考えた「想像力のスイッチ」を活用し、本や新聞などの人の目で確認されたメディアで調べ、情報の正しさを確かめようと思った。

あなたは日常で、「想像力のスイッチ」を入れているだろうか。*****

昨年度から「対話」を取り入れた授業を行っています。特に黒川小学校出身の一年生は下村先生の授業をリモートで受けたことがあると思います。そこで学んだことを思い起こしてみてください。

何かを聞いた時に何も考えずに信じてしまう、そして何も考えず拡散してしまうことはとても恐ろしいことです。いったん立ち止まって「本当かどうかを疑ってみる」ことはとても大切です。情報を発信する際にはより慎重な姿勢が求められます。一度発信した情報は、拡散された場合、たとえそれが「嘘」や「間違い」であっても完全に消去されることはありません。

私たちは全員に投げかけられているように感じたので、紹介させてもらいました。

中学生のみならず、あなたも日常で、「想像力のスイッチ」を入れているだろうか。*****

初めてカナダを訪問した二年後に大学を卒業し、私は東京の会社で働くことになりました。その年の秋に、息子ステイブンが加わった叔父さん家族が日本を訪れ、上野動物園などの東京の名所を案内し、いろいろな話をしました。それから折に触れやりとりをして、関係を深め合っていました。

時は流れ子ども達は三人とも結婚し、孫も生まれました。事業を人に譲り、仕事をリタイアした叔父さんは何の心配もなく悠々自適だったと思います。

先日、そんな叔父さんが1年前に亡くなったという話が従兄弟から伝わってきました。ガンが原因だったらしいです。日本の連絡先をローナに知らせていなかったことや、彼女は日本語がほぼ話せないこと、子ども達は皆離れて暮らしていたことなどで日本には知らせる手段がなかったそうです。

従姉弟からの知らせを聞いてカナダの電話番号を聞き、すぐにローナに電話しました。つたない英語でしたが、お悔やみとこれまでの感謝、そして彼女の気持ちと健康を心配していることを伝えました。彼女は連絡が遅くなったことを繰り返し詫言いました。

私は気にしないでほしいこと、叔父さんの人生を幸せにしてくれたことへの感謝を伝えました。私や私の家族たちの近況を聞くとびつくりしたり安心したり。これからも連絡を取り合うことを約束し電話を切りました。

リサやカレン、ステイブンは大事な従姉弟たちです。ローナは大事な叔母です。苦境を乗り越えてやりたいことを貫き、自分らしく生きた叔父さんは本当に幸せだったと思います。生まれたのは佐賀ですが、彼にとつての心の故郷はきっと地元根を張り、一番長く生活したバンクーバーだったのだと思います。以前お酒を飲みながら叔父さんと話したときに「教育は国の土台をつくるBIG・BUSINESSだ、すごい仕事だよ」と言われたことを思い出します。

彼は私にとつて初めての外国へと導いてくれた人、言葉は完璧に出来なくてもいい、伝えたいと思うことが何より大事だと教えてくれた人、人種や宗教の違いがあっても人と人は通じ合うことができると証明してくれた人、教育に本気で携わる覚悟を決定付けてくれた人、そして自分で決めた道を貫き、責任をもって生きることが体現してくれた人です。

近い将来、バンクーバーに行き墓前で言葉では伝えきれないほどの感謝の気持ちを伝えます。本当にありがとうございます、そして安らかに。
